

## 市長提案説明要旨

令和7年9月3日

本日ここに令和7年第3回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、当面の事業概要並びに提出しました議案などのご説明を申し上げます。

### 《はじめに》

#### <市制施行30周年記念式典>

先月29日に挙行いたしました市制施行30周年記念式典に際しましては、多くのご来賓、市民の皆様、約340の方々にご列席を賜り、ともに祝福することができましたことに対しまして、厚く御礼申し上げます。

式典では、市勢の発展に寄与され功労があった93の個人・24団体に対して、自治功労賞および市民功労賞として表彰させていただきました。改めまして、表彰を受けられた皆様に心より敬意と感謝の意を表します。その後、鹿島アントラーズ・エフ・シーの小泉文明社長に、鹿島アントラーズを通して、地域の魅力や地域の活性化などについて、ご講演いただきました。

市民の皆様とともに、鹿嶋市の郷土愛や未来を共有し、記念すべきお祝いの日を喜び合えたことをうれしく思っております。

今後においても、先人たちの残してきた業績を確実に継承しつつ、30年先、50年先のまちづくりを見据えて、さらなる発展と「明るく、心豊かに暮らせるまち」の実現に向け、一層の努力を重ねてまいりたいと考えております。

#### <日本製鉄鹿島硬式野球部 都市対抗野球出場など>

先月28日に開幕した第96回都市対抗野球大会において、鹿嶋市代表の日本製鉄鹿島硬式野球部（カシマ・ブルーウィングス）は、昨日行われた1回戦で札幌市代表のJR北海道硬式野球クラブを相手に息詰まる接戦を演じ、延長タイブレークの末、5対4でサヨナラ勝ちを収めました。続く2回戦は、明日、太田市代表のSUBARU（スバル）戦となっており、市民の皆さんへの熱い声援をお願いいたします。

同じく、日本野球連盟に加盟している全鹿嶋野球倶楽部が関東予選を勝ち抜き、9月13日から、愛媛県松山市で開催される第49回全日本クラブ野球選手権大会に、19年ぶり2回目の出場を決めております。カシマ・ブルーウィングスとともに、全国大会での躍進を期待しております。

今年度は、これまでさまざまなスポーツにおいて、個人・団体合わせて56件で全国大会に出場され、鹿嶋市の名前を広めていただきました。今後も、市としてスポーツ振興に取り組みながら、できる限り支援していきたいと思っております。

## 《事業の概要等》

続きまして、鹿嶋市のまちづくりの実績と当面の事業概要について、ご説明申し上げます。

(スマート&コンパクトな鹿嶋をつくる／暮らしやすく、生きがいのあるまち鹿嶋)

### ○（仮称）鹿行南部道路建設促進期成同盟会の中央要望

去る7月24日、本市・神栖市・潮来市を含めた関係機関により立ち上げました「東関東自動車道鹿嶋神栖線（仮称）鹿行南部道路建設促進期成同盟会」が中心となり、東関道の鹿嶋延伸の早期実現に向けた中央要望を行ってまいりました。

地元選出の国會議員、市議会議員の方々をはじめ、鹿島港を利用する企業の皆さん、さらには地元商工会や観光協会、鹿島アントラーズにもご参加いただき、総勢40名を超える要望団を結成し、国土交通大臣に要望書を手渡すことができました。地元の熱気や盛り上がりをこれ以上ない形で伝えることができたものと考えております。

また、メンバーは異なるものの、その翌週の30日には、財務大臣に対しましても同様の要望書を手渡すことができました。

今後も神栖市や潮来市、関係機関と連携しながら、（仮称）鹿行南部道路の早期実現を目指し、効果的な方策を講じてまいります。

### ○DX推進に係る連携協定の締結

人口減少や限られた行政リソースといった構造的課題が進む中、本市では、「行政財政改革」を重点施策に位置付け、その実現手段の一つとしてDXの推進に取り組んでおります。これまで、生成AIの活用やRPA・ノーコードツールの導入、行政手続のオンライン化といった取り組みを進めてまいりましたが、専門人材の確保や業務改善に充てる時間の不足といった課題も顕在化しておりました。

こうした現状を踏まえ、6月26日、IT・DX分野に強みを持つセルプロモート株式会社と業務支援に関する連携協定を締結いたしました。市議会からのご紹介もいただき、自治体DXにおける先進的な知見を有する企業との連携体制を構築できたことに、改めて感謝申し上げます。

今後は、同社の民間ノウハウを活用し、業務プロセスの改善支援、セキュリティ対応の強化、職員スキルの向上などを通じて、DXの加速に向けた伴走体制を築いてまいります。本協定は、単なる技術導入にとどまらず、行政リソースの有効活用と職員の意識改革にもつながるものと捉えております。限られた期間の中で成果を創出できるよう、着実に取り組んでまいります。

(多様性を理解し共に生きる／暮らしやすく、生きがいのあるまち鹿嶋)

### ○女性活躍のための居場所づくり事業“みちかけN E S T（ネスト）”の開始

本市では、将来にわたり、多様性に富んだ豊かで活力あふれる「鹿嶋らしいまちづくり」の実現を目指し、男女共同参画やダイバーシティ（多様性）社会の推進に取り組んでおります。その一環として、今年度から女性が安心して集い、活躍できる場を創出する「みちかけN E S T（ネスト）」事業を開始しました。

この事業は、本市を拠点に、女性が自分らしい生き方を見つけるきっかけを提供するとともに、起業や新たな社会参画の道を広げ、移住・定住の促進にもつなげていくことを目的としております。

今年度は、「みちかけ Salon（サロン）」「ゲストワークショップ」「スキルアップ」の3つのプロジェクトを展開し、女性たちが互いの想いや課題を共有しながら学び合うことで、地域に新たな絆と活力が育まれることを期待しております。

今後、全6回にわたる交流会をはじめ、写真や動画制作のデジタルスキル研修なども実施していく予定です。

市としては、「みちかけN E S T」を通じて、女性たちの挑戦を後押しし、本市における男女共同参画や多様化の推進を一層前進させてまいります。

## ○「認知症とともに生きる」イベント開催

高齢化が進む現代を生きる私たちにとって、年齢にかかわらず誰もがなり得る認知症について、一人ひとりが「自分ごと」として理解する必要があります。認知症になってからも、本人の意思が尊重され、住み慣れた環境で自分らしく暮らし続けることができるよう、認知症や認知症の本人についての理解を深めることが大切です。

このため、9月は「認知症月間」、そして21日は「世界アルツハイマーデー（認知症の日）」にあたることから、本市では「認知症とともに生きる」と題した啓発イベントを26日に開催いたします。

このイベントでは、39歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断された丹野智文氏の体験をもとに制作された映画『オレンジ・ランプ』の上映と、そのモデルとなつたご本人によるトークショーを予定しておりますので、多くの皆さまのご来場をお待ちしております。

## ○戸籍への振り仮名記載

これまで戸籍には氏名のフリガナの記載はされておらず、出生届などに記載された読み方を各市町村が保有し各種事務処理に利用してきましたが、戸籍法の改正により、5月26日から戸籍の氏名に新たにフリガナが記載されることになりました。

この対応に当たり、全国一斉に本籍地のある市区町村から対象となる方あてに「戸籍に記載される予定の振り仮名の通知書」を送付することとなり、本市でも先月4日に約3万通を発送したところです。

戸籍にフリガナが記載されることによって、例えば、金融機関などにおいてフリガナを使い分けて複数の口座を開設するといった不適切な行為が防止できるほか、

今後、さまざまな手続きにおいて本人確認がより確実、スムーズに行われることになり、幅広い行政サービスが向上することが期待できます。

既に多くの皆さまのご自宅に通知が届いていることは思われますが、必ず振り仮名に誤りがないかを確認し、修正などがある場合は速やかに届出を行っていただきますよう、ご協力をお願ひいたします。

### (共に学び成長しながら生きる／元気で賢い鹿嶋っ子育成)

#### ○小中一貫教育

本年4月から、9年間の連続した学びを通じて「確かな学力」と「豊かな人間性」を育むことを目指し、市立の全学校で小中一貫教育を開始しております。

この小中一貫教育の実践をより明確にし、各中学校区のつながりや一体感を醸成するため、中学校区毎にグループ名として「学園名」をつけました。正式名称ではありませんが、今月からは中学校区ごとに「鹿嶋市立〇〇学園〇〇小（中）学校」の表記で運用し、連携を一層推進してまいります。

#### ○部活動の地域連携・地域展開

現在、中学校部活動は、生徒数の減少や教員の働き方改革など、さまざまな課題に直面しております。本市では、国のガイドライン、県の部活動の運営方針を踏まえ、中学生を取り巻く環境が大きく変化する中、子どもたちが生涯にわたりスポーツ・文化芸術活動を楽しむ環境を作るため、「かしまスポーツクラブ」や「鹿嶋市文化スポーツ振興事業団」、競技団体などと連携し、休日の活動における体制づくりを進め、今月から本格的に休日部活動の地域展開をスタートいたしました。

これにより、他の学校の生徒や地域の指導者といった学校の枠を超えた交流を通じ、地域とともに子どもたちの健やかな成長を支えるための取り組みを進めてまいります。

### (環境未来都市・鹿嶋をつくる／行ってみたい、暮らしてみたい鹿嶋)

#### ○鹿嶋市新ブランド（商品、サービス）開発

市内消費額やふるさと納税の寄附金額の増額につなげ、「鹿嶋と言ったらコレ」と言われるような新たな商品の開発を目指すため、鹿嶋市商工会と連携して、新ブランドの開発に取り組みます。

地域に関わる実践者と創造力を持つクリエイターをマッチングし、市の地域資源を活用しながら、新たな商品やサービスをともに創るチャレンジプログラムを実施します。本事業により、地域資源の新たな活用方法が見い出され、実際に形となる商品やサービスが創出されることを大いに期待しております。

以上、まちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げました。

### 《決算認定》

次に、本定例会で認定いただく、令和6年度決算についてであります。

一般会計につきましては、歳入総額が、前年度比2.5%増の263億8,098万9千円、歳出総額が、前年度比2.6%増の256億2,656万3千円となりました。

歳入は、市税のうち、企業収益の増加による法人市民税や土地に係る固定資産税、地方交付税やふるさと納税に係る寄附金、前年度繰越金などが増となる一方、市税のうち、定額減税などによる個人市民税や償却資産に係る固定資産税、基金の繰入金などが減となっております。

歳出は、主なものとして、寄附金受入業務拡大に伴うふるさと納税推進事業などにより総務費が増、住民税均等割のみ課税世帯等支援給付金事業の増などにより民生費が増、一般廃棄物広域処理事業の減などにより衛生費が減、都市再生整備事業の減などにより土木費が減、小学校教育振興支援事業の増などにより教育費が増となりました。

実質収支は、7億2,269万4千円の黒字となり、この2分の1相当額以上となる額を財政調整基金へ積み立て、残りの額が本年度への繰越金となります。

特別会計につきましては、6会計の総計といたしまして、歳入が0.2%減の131億7,957万円、歳出が0.3%減の128億7,075万3千円となり、歳入歳出の差引額は3億881万7千円の黒字となりました。

哲学者の野家啓一氏は、「山で道に迷ったときに…一番重要なことは自分の『現在位置』を確認するということ」と述べています。

そのためには地図とコンパスを使って「方向」を探ることと、自分が立っている場所の視点だけでなく、全体を俯瞰し「平衡（バランス）」を取ることが必要だと、山歩きの好きな野家氏は言い、社会的な判断をなすに際しても同様の感覚が必須だとも語っています。

すなわち、市政運営におきましても、問題が起こっている背景や置かれている現状など、ファクトを的確につかむことが重要であり、そして、事務事業の全体を俯瞰する「ロジックモデル」に基づく検証や展開が必要であると考えております。これらを念頭に置いて、市民サービスの質的向上のため、引き続き、将来を見据えた事業の取捨選択を行いながら、持続可能で安定的な行財政運営に取り組んでまいります。

### 《提出議案等》

次に、提出しました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案が5件、条例関係議案が5件、諮問関係議案が1件、認定関係議案が4件の、合わせて15件であります。

予算関係議案は、令和7年度一般会計及び特別会計などの補正予算であります。

一般会計補正予算については、既定の歳入歳出予算の総額にそれぞれ1億1,137万2千円を追加し、総額249億2,571万4千円となりました。

歳入の主なものといたしましては、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金などによる国庫支出金の増、介護保険特別会計繰入金などによる繰入金の増、過年度補助金に係る返納金などによる諸収入の増などを見込みました。

歳出の主なものといたしましては、返還金や民間保育施設給食費等支援金による教育・保育施設入所支援事業の増、備品購入などに係るごみ処理施設管理経費の増、設計委託料などによる道路維持補修費の増などを見込みました。

介護保険特別会計補正予算については、国庫支出金などの返還金や令和6年度決算に係る諸支出金などによる補正であります。

水道事業会計補正予算については、職員給与費による補正であります。

下水道事業会計補正予算については、建設改良費による補正であります。

農業集落排水事業会計補正予算については、管渠費や職員給与費による補正であります。

条例関係議案は5件で、いずれも一部改正となります、「鹿嶋市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等（とう）に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例」などであります。

諮問関係議案は、人権擁護委員候補者の推薦について、議会の意見を求めるものです。

認定関係議案は、令和6年度一般会計及び特別会計などの決算認定についてであります。

私の説明は以上で終わりますが、予算及び決算認定以外の議案については、総務部長から補足説明をいたします。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。